

こみこみ



日立市のコミュニティ情報紙

発行：日立市コミュニティ推進協議会
編集：コミュニティ情報紙編集委員会
〒317-8601 日立市助川町1-1-1
日立市コミュニティ推進課内
☎0294-22-3111

No.52

2024.3.20



目次	
何ができる？日立のコイン「タッチ」	1
日立市コミュニティ活動 推進行動計画の進捗状況	1
単会特集	
豊浦・田尻・宮田・会瀬	2
塙山・大みか・坂下	3
【編集後記】単会の活動を追う	3
原子力災害避難訓練 PAZ圏内の3コミュニティ	4
市とコミュニティの連絡網 大雨発生時に有効に機能	4
会長視察研修 防災とまちのコインを学ぶ	4
学校再編に伴う 学区コミュニティはどうする？	4

何ができる？日立のコイン「タッチ」

日立市では、4月16日からスマートフォンを利用したコミュニティ通貨アプリ「まちのコイン」が始まります。まちのコインは、換金性がない地域通貨で、日立のコインは「タッチ」。まちにいいことをするとタッチがたまり、たまったタッチをつかってお金で買えない特別な体験ができます。

例えば、清掃や防災訓練などのコミュニティ活動をするとうちのコインがたまります。そのタッチをつかって、地域で採れた野菜や果物をゲットできる、地域のイベントに優先参加できるなど、ちょっとお得でうれしい体験ができます。様々な体験ができるように準備中です。



日立市コミュニティ活動推進行動計画の進捗状況

経理担当者の意見交換会

会計処理についての理解を深めることを目的に、「会計処理ハンドブック」を使った経理担当者向け研修会を開催し、各コミュニティの経理担当者の意見交換会を開催しました。

各コミュニティごとに様式や財源が異なり、それぞれの意見を聞きながら会計処理ハンドブックを参考に、統一に向けた有意義な意見交換会となりました。

防災活動専門部会議

「災害時の連絡体制及び活動マニュアルの整備について」をテーマとして、9コミュニティの代表者による会議を開催しました。

災害発生時における避難行動要支援者の支援フローチャートの作成や市災害対策本部からの各コミュニティへの連絡手段並びに広報、避難情報など多岐にわたる問題を議論し、各コミュニティで行っている防災活動の課題を改善して、いざという時に役立てたいと思います。

豊浦 絆のまち

「海と緑輝く ふるさと豊浦」とあるように風光明媚(ふうこうめいび)な学区です。その中で育つ子ども達は素直さと大らかさを持つ子が多く、将来を大いに期待しています。三大事業の市民体育祭、三世代文化祭、昭和44年から続く夏の花火大会は各戸の協力金と商店等の花代で賄っています。住民と共に築いてきた『絆』を大事に、より良いまちにしていきます。



宮田 久しぶり お元気でした？

12月9日、35名のゲストが久々ながら、5名のプレイヤーもコロナ明け初めての「ジャズ講座」を開催。コーヒーの香りが漂う中、ノリの良いジャズのリズムに体を預けて、心地よいひとときを過ごしました。閉幕後、体を揺らしながら帰るゲストの一言、「次はいつやるの？」ですって。実施して本当に良かったとは、スタッフ全員の感想でした。

田尻 地域で味わう文化の宝庫

田尻学区では、毎年10月に文化祭を開催しています。地域の方々の活動成果の発表、作品展示やハンドメイド販売を行いました。地域の方々からの要望でクリスマスコンサートを行い、皆さんで楽しく歌い大変盛り上がりました。来年も楽しみにしているとの声が多数ありましたので、また企画したいと思います。



会瀬 地域伝統 「第34回浜の焚き上げ祭」

晴天の下、1月15日(月)。会瀬青少年の家広場で、会瀬小全児童238名、おおせ保育園児年長10名、市職員研修者4名などとともに地域住民が参加しました。

会瀬小運営委員の進行で無病息災、安心安全を願い午前10時10分に点火。会瀬浜太鼓を2年から6年生の23名が披露しました。

塙山 まちづくりへ6年生が参画

地域学校協働活動の取組で、今年度6年生は総合的な学習の時間の集大成として「塙山子ども議会」を計画。塙山学区の現況やアンケートによるデータ収集、先進事例から見えた課題について話し合い、安心・安全・交流・環境・未来のテーマから子ども目線でまとめたまちづくりへの考えを、地域役員に提案しました。



大みか もちつき

お正月って何をしてお祝いする？今の時代、店に行けば何でも売っています。門松、凧、こま、おもちなど、

昔はどのようにやっていた？昔からの慣わしや行事を大切に伝えていきたいものです。年明けて、大みか恒例の杵と臼を使ったもちつきを子ども達と一緒に行って楽しみました。



交流センターの前でにぎやかに

坂下 菜の花のじゅうたんでお出迎え

坂下地区コミュニティ推進会では、地域の皆さんと協力して久慈川河川敷で菜の花の栽培を行っています。主な活動は、草刈りや石拾いの保全作業・種まき・菜の花まつりなどです。秋にまいた種が翌年4月頃に満開になり河川敷を黄色く染め上げる様子は圧巻です。今年の花のまつりは3月30日(土)の予定です。ぜひ足をお運びください。



編集後記 単会の活動を追う

こみこみ50号の記念号から、23コミュニティ単会の旬な話題、特色ある事業を紹介してきました。

コロナ感染が少し落ち着き、以前のイベント復活や新たな事業、住民とのつながりを生かした活動、子どもたちの学びを支援する活動など、コミュニティ活動のヒントがありました。

今後もコミュニティ活動の輪が広がっていくように新たな活動を掲載していきます。



原子力災害避難訓練 PAZ圏内の3コミュニティ

1月5日、日立市南部地区では原子力災害を想定した避難訓練が行われました。東海第二原子力発電所からおおむね5km圏内にある坂下、久慈、大みかの3地区は、万一原子力事故が発生した時、放射性物質が放出される前の段階から予防的に避難を行う区域(PAZ)に定められています。

この区域のバスで避難する方は「避難を開始してください」という広報とともに、一時集合場所に集合する手はずになっています。この日、3コミュニティは、それぞれ坂本小、久慈中、大みか小に参

集し、公募で参加する方は久慈川日立南交流センターに参集の後、バスで常磐道を通って福島県の各避難中継所に向いました。



いわき中央台公民館への避難訓練

車中で原子力発電所の職員から、原子力事故が発生した場合の対処について、クイズを交えたレクチ

ャーがありました。避難中継所のいわき市中央台公民館、いわき市平体育館、田村市総合体育館は、いずれも立派な施設で、各施設での市長、副市長、教育長の挨拶の後、昼食のもてなしがありました。

今回の避難訓練への参加で、万一の場合も少しの安心感が得られたのではないのでしょうか。

学校再編に伴う 学区コミュニティはどうする？

市は学校再編のために、平成29年1月から学校の適正配置に関する地域懇談会を開催しています。

その中で地域と学校の関係について、「学校再編によってコミュニティが活動しにくくならないようにしてほしい」「学校を通して地域がつながっている。統合によって地域の連携、存続ができなくなる」などの意見が出ていました。

再編対象校では学校関係者、保護者、地域住民などで構成する統合準備委員会を設置、統合に関する様々な協議を行いながら再編を進めています。東小沢小と坂本小は令和6年4月、櫛形小と山部小は令和8年4月に統合します。

令和9年4月に再編するための統合準備委員会の中には、複数の学区コミュニティが関わっている場合もあり、例えば、宮田小、仲町小、中小路小の再編では、昨年12月に3コミュニティの意見交換会が開催されました。青少年育成活動(地域わんぱく隊)、学区防災訓練をどうするのかなど、担当者から不安の声が出ていました。

また、大沼学区では通学する学校が分かれる再編計画に不安の声もあります。学区を地区コミュニティに替える機会との意見を取り入れながら、今後のコミュニティ構想を検討する必要があります。

市とコミュニティの連絡網 大雨発生時に有効に機能

令和5年9月8日、日立市において台風13号に伴う線状降水帯によって、短時間に大雨(1時間に97mm)が降り、中・小河川があふれ大きな被害が発生しました。

市(コミュニティ推進課)と23コミュニティは、「コミュニティ緊急連絡網」を活用して随時、情報共有を行ないました。

LINEやメールを活用して、市から各コミュニティに、①台風の勢力や進行方向、②避難所開設の有無、③対策会議の内容やその他全般について情報を発信。各コ

ミュニティからは、①地域の災害状況、②避難者の有無や人数などを報告、お互いの情報を共有できたことは非常に有効でした。

この緊急連絡網は、市と23コミュニティの各2名が登録をしており、緊急時に備えているものです。



大沼団地内を流れる大沼川の決壊

会長視察研修 防災とまちのコインを学ぶ

今年度の会長視察研修は、横浜市民防災センターでの映像を使った風水害体験、災害時に役立つワークショップ、避難所等で言葉が通じない時のコミュニケーションボード体験などを通して多くの発見がありました。

鎌倉市でのまちのコイン体験は、

まもなくスタートする日立市のまちのコイン「タッチ」の先取り研修になりました。

鎌倉市のまちのコインを運営する面白法人カヤックによる説明の後、まちなかのスポット4カ所を周り、QRコードでチェックインして実際に体験。まちのコインを使って楽しめるメニューやアイデアなどを学びました。



歴代のこみこみは
こちら